

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年6月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300864
法人名	有限会社 うへの福祉会
事業所名	グループホーム うへの
所在地	鹿児島県鹿屋市上野町5200番地1 (電話) 0994-40-3181
自己評価作成日	平成25年5月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、静かな住宅街にあり、ポニー3頭が出迎えてくれる施設です。地域住民の皆様も立ち寄りやすい開放的な雰囲気を心がけております。うへの福祉会では、高齢者のさまざまなニーズに合わせた施設を有しております。施設の向上はもちろん、スタッフの質の向上を目指し、年間4~5回の研修会を開催しております。外部講師を招いての講演会、事例発表会、毎月の職員会議内での研修会など開催しております。また、身体拘束、感染症対策、事故、ヒヤリハットなどの委員を決めての取り組みを実施し全スタッフでの検討や共通理解、質向上を目指し日々取り組んでいます。利用者様が楽しみのある時間を過ごして頂けるように、季節の行事(花見ドライブ、秋祭り、クリスマス・忘年会等)や各種行事(バイキング、出前ラーメン、歌や踊りの慰問)など様々な催し物を実施しています。月間行事としては誕生日会、雰囲気を変える為の喫茶コーナーや音楽、書道、創作活動など盛り沢山の活動を実施し、利用者様はもちろんスタッフも楽しんでいきます。当ホームでは利用者様の楽しみの1つでもあります、入浴も車いすのまま安心して入れるように、特殊浴槽を完備しており、スタッフの介護負担軽減や腰痛対策にも配慮し力を入れているところです。また、家庭的な雰囲気の中で、家族と共に看取りの支援も行っています。今後も利用者様が安心して生活できるように支援し環境作りに努めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・地域との連携が密で、町内会に加入し、地域行事の夏祭りや敬老会・運動会等に参加、近所から野菜の差し入れ等もあり、日頃から地域住民と交流がある。また、小・中学生の職場体験や専門学生の実習・研修やボランティアも受け入れている。施設全体として、ホールの開放、市の緊急避難場所の指定や福祉相談など、地域に貢献している。
- ・職員研修が充実しており、講演会への出席、定期的な外部・内部研修会、事例研究会、毎月の職員会での研修、また、リスクマネジメント実行委員会の活動など、職員は資質の向上をめざして自己研鑽に努めている。
- ・入浴支援では、特殊浴槽を導入して車椅子の利用者も、ゆっくり浴槽に入れて入浴を楽しんでいる。
- ・終末期における看取りのケアについては、協力医療機関と連携して24時間体制で対応している。職員は、ケアの方針を共有して、ホームとして最大限の支援ができるように研修を深めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	・リビング内の見やすい場所に掲示し、毎週月曜日の朝に、利用者様、職員一同一緒に唱和を行い、共通認識し、職員は日々のケアに努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を、グループホーム独自で作成し、玄関やホールに大きく掲示して、毎週、月曜日の朝、全職員で唱和し、研修会等で確認しながら共有し、日々の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・町内会に加入し、地域の夏祭り、敬老会、運動会などに参加し交流を図っている。	町内会に加入し、地域より野菜の差し入れを頂いたり、ホールの開放や市の緊急避難場所の指定を受けるなど、地域との繋がりを大切にしている。また、小学生や中学生の体験学習、専門学生の実習・研修やボランティアの受け入れなど、日常的に交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	・町内会の話し合いや、施設全体として地域貢献の意識を持って、地域の方の相談に応じるなど実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・会議で報告、意見交換を行い職員会議で運営推進会議での内容を報告し全職員に共通理解して頂きサービス向上に努めている。</p>	<p>運営推進会議は、家族代表や行政担当者・町内会長・民生委員等の参加を得て、ホームの現状や利用者の状況・外部評価結果等を報告し、提案が出されたりして意見交換を行なっている。出された意見等は、職員会議で話し合いサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>・運営推進会議、行事などに参加して頂き事業所の取り組みの報告を行い連携を密に協力関係を築いている。</p>	<p>市担当者とは、ホームの現状や利用者の相談・事務連絡などで、連携を密にしている。毎月ホーム便りも送付している。運営推進会議はホーム行事と同日に実施して参加してもらい協力関係ができています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>・玄関の施錠は、夜間と日中皆で外出する時以外はしていない見守りを基本として日々ケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員は外部研修に参加したり、内部研修で年間計画を作成し、身体拘束廃止委員会が中心になり、指針やマニュアルを基に、拘束の事例をあげて、手順・連絡体制などに取り組んでいる。日中の玄関の施錠はせずに、見守りを中心に利用者が自由な暮らしをするために、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・定期的に外部、内部の研修に参加し全職員、共通認識の下で最重要認識し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・勉強会や研修にて制度を理解し必要に応じて活用できるように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・理解と納得をして頂けるように十分な説明をし、不安や疑問のないよう努める。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・家族会、面会時などで意見、要望を聞き家族が理解し、納得出来る様に話し合いを行い、改善点などを職員全体で取り組んでいる。	利用者からは日常会話や動作から汲み取るように心がけ、家族からは家族会や面会時、定期連絡時に話をして意見や要望などを聴取している。出された意見等は、職員で話し合い、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>・職員会議で意見を聞いたりアンケート方式で書面にて意見を求め、反映できるよう取り組んでいる。</p>	<p>管理者は、朝礼や職員会議・色々な機会において意見を聴いている。職員へのアンケートも年1回実施し把握している。出された意見や提案は、改善の可能な課題から運営に反映するようにしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>・職員個々各自が、向上心を持って働けるように職場環境、条件の整備に繋げられるように努める。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・外部の研修に参加希望者には出来るだけ参加して頂き、法人内でも内部研修を年4～5回の計画して質向上に取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・外部研修で同業者との交流の機会がある時は出来るだけ交流を深め、ネットワーク作りを心がけているが、相互訪問の機会がなかなか作れていないのが現状である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人の訴えること、心の不安などに傾聴し時間をかけ、信頼関係を築き、安心できる環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の困りごと、不安なこと等を聞き取り、少しでも解消できるように、実践しながら、家族とも何度と話し合いながら、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・利用者、家族が「その時」に必要とするサービスをすぐに見極め実践する体制を作っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者との会話を大切にし、心に寄り添うケアを心がけ、暮らしを共にする家族の様な関係を心掛けて菜園で作った野菜をいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人、家族との連携を大切に、家族面会時だけでなく、きめ細かい電話連絡を行い、意見をもらいながら、支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・暑中お見舞いや年賀状などを出して、近況報告を行ったり、電話等で報告、会話などを楽しまれている。	兄弟や妹・友人等の面会が多く、若い頃、利用者に世話になった知人が訪れてきたり、電話での会話や年賀状等の手伝いを支援している。墓参りや自宅訪問を家族の協力を得ながら行い、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・お互いを助け合い支えあえるよう、職員が間に入り関わりあえるよう支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・本人、家族及び移転先施設等からの問い合わせに対して適切に対応できる様に体制作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・利用者との会話を大切にし、思いや意向を聞き取り、把握に努めている。意思疎通が取りにくい方は、家族から入居時や面会時に情報を得て、職員一同がしっかりと情報を共有し支援している。	入居時に本人の思いや意向を聞いたり、日々の関わりの中での対話を通しての思いやしぐさなどから、把握している。家族に電話をしたり、面会時を通して話しを伺うこともある。職員の情報を基に話し合い、本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人、家族からしっかりとアセスメントをとり、より良いケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎朝の申し送りや申し送りノートなどを活用し現状の把握などに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・月1回のケア会議、担当者会議だけでなく日頃のケアの現場でも意見を出したり、家族からの意見を聞き取ったりして、利用者様にあった介護計画を作成出来る様心掛けている。	利用者や家族の思いを聞き、介護計画を作成している。ケアプランは日頃から意見を出し合っており、その都度見直しを行い、1～2ヶ月毎に家族に聞き取りをしている。職員は毎月ケア会議をしてモニタリングしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人記録や毎日のケアプランチェック表などを独自に作成し職員間での情報の共有し、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・一人ひとりのニーズに合わせて施設内外の柔軟な支援やサービスを取り入れ多機能化に取り組めるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域資源をしっかりと把握し一人ひとりが安全で豊かな暮らしを楽しめるよう、地域の方々と交流を深め生活している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人や家族の希望する、かかりつけ医と密な連携を取り、支援体制を整えている。かかりつけ医との密な関係を築き適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医の受診を支援している。かかりつけ医の往診や毎週木曜日に、歯科医の往診があり、適切な医療が受診できるように連携を取りながら協力関係を築き支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・特に急変時の対応には、かかりつけ医の看護師、医療連携先の看護師に迅速に対応出来るよう体制がしっかりと整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院、退院時に病院関係者と家族とカンファレンスなどを開催し情報交換や相談に努め密な連携関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・家族会や早い段階で家族等に書面での十分な説明を行い、日頃から病院関係者等としっかりした連携、連絡の体制を整え、良好な関係の構築に努めている。	重度化や終末期に向けた指針書を作成し、入居時に家族に説明し、同意書を得ている。家族や職員・病院関係者と、何度も話し合いながら現状に沿った体制を整え、方針を共有して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時のマニュアルを備え、器具の使用法、緊急通報など何れと研修を重ね、共通認識に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回5月・11月に消火避難訓練を行い、地域住民、消防団の協力を頂き協力体制を築いている。水害、地震などの災害避難場所の指定にもなっている。	年2回、自主訓練と消防署の指導のもと昼・夜間想定消火避難訓練を実施している。地域の協力もある。防災訓練には消火器や防災設備の点検など、業者も参加している。スプリンクラーや緊急通報装置も設置されている。災害時の水・食料などの備蓄も設置されている。市の緊急時避難場所の指定を受けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・内部研修などで勉強会を重ね人格を損ねない言葉かけやケアに十分に配慮している。	マニュアルに基いて接遇マナーや人格を損ねない言葉かけや対応について、内部研修を実施し、職員の意識や質の向上を図っている。個人情報保護にも気配りしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常の会話の中で聞き取れるよう働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりの生活のリズムやペースを大切にし利用者の希望に添えるような支援が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	・自分で好みの服を選んで頂いたり、鏡を見て髪を研いで頂いたり、本人の希望により、化粧品をして頂いたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事が楽しくなるよう季節の野菜の下ごしらえをして頂いたり、味見などして頂き、楽しんで頂ける様支援している。嗜好調査を行い、好きなものを食事に出せる様取り組んでいる。	嗜好調査をもとに、利用者の好みを知り好物を提供したり、菜園で収穫した野菜を食材に使い楽しんでいる。正月や花見・クリスマス会には行事食を提供し、外食も楽しんでいる。調理の時は、下ごしらえや片付けなど一緒にしている。食事形態も、普通の状態を見た後に刻んだりミキサーにかけたりする等、配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人ひとりにあった水分量、食事量などをかかりつけ医などからもアドバイスを頂き、本人にあった栄養バランスなど考慮して食事の提供をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケアを行い、個人の状態に合わせて職員が支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・一人ひとりの排泄のパターンをしっかり把握し、排泄の失敗が減少するような自立に向けた支援を行うよう努力している。	排泄チェック表を活用して、個々のパターンを把握している。リハビリパンツから布パンツ着用への改善がみられる。介護度の割には、布パンツ使用者が多く、排泄の自立に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事、水分の摂取を工夫し具体的に言えば毎朝の冷たい牛乳、おやつにサツマイモ使用、週に2~3回ヨーグルト、毎日朝食後必ずトイレ誘導する、など予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>・入浴は週3回実施しており、本人のペースに合わせゆっくりと入って頂き、車椅子の方等も特浴施設にてゆっくりと湯船に入られ喜んでおられる。</p>	<p>入浴は週3回実施し、昼から入浴支援をしている。体調が悪い場合は、清拭に変更するなどして対応している。車椅子の利用者は特殊浴槽で、ゆっくりと入浴して楽しむように支援している。入浴剤を好みに応じて使用している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>・一人ひとりの健康状態、その時々状態に合わせて、安心して眠れるよう環境を整えている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>・一人ひとりの服薬の目的、副作用、用法をしっかりと把握し理解に努め、症状の変化をかかりつけ医に報告し、服薬の際の間違いのないよう徹底した管理を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>・利用者様の無理のない範囲で洗濯物たたみ、洗濯物干し、野菜の下ごしらえなどして頂き、生きがいを導き出し、月行事（誕生会、創作活動、音楽教室等）を実施し楽しみ事に行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>・一人ひとりの行きたい場所に連れ出す支援を定期的実施し家族や地域の人々の協力を頂き本人様も喜んでいいる様子が伺えている。</p>	<p>日常的には、自分で歩いて近隣を散歩したり、敷地内のポニーと遊んだりしている。行きたい場所の希望を聞いて、定期的に外出支援をしている。個人的に親戚の家や自宅に行ったり、買い物支援などしている。誕生日や母の日には家族の協力を得て、外食やドライブを楽しんでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>・本人様がお金の管理が難しいのが現状にあり、約1名の方が管理が出来ている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙に関しては一人で出来ない方は職員がお手伝いし書いているが、電話は家族や大切な人へこちらからしたり、もらったりし、出来るだけ本人と会話して頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・毎日清潔を心がけ、季節を感じて頂けるよう、特に食事には新ものを取り入れ、リビングには季節の壁面や皆さんで作った製作作品などを飾り雰囲気作りを心がけ居心地よく過ごせるようにしている。</p>	<p>リビングは、天井が高く陽射しが差し込み明るい。こいのぼりや七夕飾りを利用者と一緒に作って飾ってある。空気清浄機や加湿器があり、テレビを観ながらゆっくりくつろげるソファもある。掃除も行き届き清潔である。季節の花を飾って、居心地よい空間づくりの工夫がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>・独りになりたい方は、居室でゆっくりと過ごして頂いたり、テレビの前にソファでゆっくりと過ごすスペースなど確保している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・本人の使い慣れた物や好みの物を居室に置いて本人が住みやすく居心地よく過ごせるよう工夫がしてある。</p>	<p>家族と相談して持ち込まれた、馴染みのタンスや写真・手紙・小物・位牌などが置かれている。また、折り紙やアルバムなどで楽しむよう、居心地よく過ごせる工夫がなされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>・一人ひとりのアセスメントを重ね、現状把握に努め、自立した生活を送れるよう努めている。</p>		

V アウトカム項目

グループホームうえの さちの家

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)</p>		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)</p>		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	<p>職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)</p>		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。</p>		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。</p>		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない